

支援機器等導入実証事業  
自立支援機器を活用する就労支援プロジェクト

成果報告書

令和8年3月9日

大成段ボール株式会社

## 目 次

### I. 事業概要

1. テーマ.....	3
2. 事業概要.....	3
(1) モニター評価チーム.....	3
(2) 製品概要.....	3
(3) モニター評価の概要.....	4

### II. 事業報告

1. 背景.....	5
2. 目的.....	5
3. 実施内容.....	6
4. 実施結果.....	9
5. 今後の予定.....	11

## I. 事業概要

### 1. テーマ

障害者が安心して仕事に集中できる「calm down ROOM」の設置

### 2. 事業概要

#### (1) モニター評価チーム

##### ①支援機器製造事業者：

- ・大成段ボール株式会社 岩崎晃介
- ・株式会社コムフレンド 佐藤忠弘

##### ②仲介者：

- ・香川大学附属支援学校 佐藤先生
- ・香川大学 学生支援センター バリアフリー支援室 坂井教授

##### ③モニター評価者：

- ・あなぶきパートナー株式会社 施設管理者：吉松様、利用者：千馬様

#### (2) 製品概要

2022年8月より、株式会社コムフレンドにてパーテーションとして商品化していた「cozyx パネルLL型8枚組 1式」及び「cozyx パネルL型8枚組 1式」の販売を継続していました。2025年6月から大成段ボール株式会社で製造、供給しております。

両社は、従来製品を生かして、より世の中で活用してもらえるような機能性を持った製品にできないかと考え、障害者が安心して仕事に集中できる「CALM DOWN ROOM」を開発しようと両社の方針が一致しました。

従来の「cozyx パネルLL型8枚組」ではパーテーション(三方を囲う壁面パネル)として使用するタイプでしたが、今回開発する「CALM DOWN ROOM」では従来の8枚組をベースにパネルを1枚追加して9枚組とし、さらに天板を1枚追加することでROOM型にすることが実現できました。(次ページ図参照)



従来型（パーティション型）



新型「CALM DOWN ROOM」(ルーム型)

この商品の素材は、「Re-board」というスウェーデン原産の紙素材で出来ており、軽くて丈夫で 100%リサイクル可能で環境にも配慮された商品であります。

また、屋根・天板・床材に段ボール素材を組み合わせることで、十分な強度を確保しながらコストを抑えることが可能となり、誰もが親しんでもらえるようなデザインを取り入れた「CALM DOWN ROOM」が完成しました。

特徴としましては、周りの気になる雑音が遮断され、障害者が作業や休憩中に落ち着ける空間にすることが実現でき、仕事を長く続けていく上での手助けになると考えています。

### (3) モニター評価の概要

#### ① 実施期間

令和 7 年 9 月 17 日 ~ 令和 8 年 1 月 28 日 ( 90 日間)

#### ② 実施対象

精神障害、身体障害、知的障害を持つ、19~52 歳の男女約 22 名

#### ③ 評価方法

製品を施設内に設置して、就労中に使用していただき、利用前と利用後の効果を検証します。

障害者の進路指導の知見を持った香川大学附属支援学校の先生にご参加いただき、

利用者との面談や製品改良についてのアドバイスをいただきました。  
評価結果は利用者でも答えやすいように主に5段階評価のアンケート方式で集計しました。

#### ④ 評価項目

- ・ 利用前と利用後の心的ストレスの変化
- ・ 利用前と利用後の作業効率の変化
- ・ パネルの組み合わせを変えたときの変化  
(遮閉式利用とルーム式利用での効能変化)
- ・ 旧タイプ(木製)と新タイプ(Re-board製)を比較する

## II. 事業報告

### 1. 背景

近年、障害者支援機器の販売は、新規の製品が少ないことや、スマートフォンの普及により減少傾向にあります。しかしバリアフリーが普通の世の中になり、

2002年に株式会社コムフレンドが提唱した、「cozy roomを中心にしたCOZYプロジェクト」(別紙5参照)が普通にある世の中になりました。この背景には2018年~2020年にかけて、cozy room(calm down対応)が成田空港様から3種類6式の受注を頂き、東京オリンピック開催にあわせた取組に「バリアフリー貢献賞」が2021年に国土交通省から授与されました。

最近の事例では、福岡市の教育委員会様に市内の支援学校5校に向けてハイグレードな機種(1式およそ60万円)を2025年1月に5式納品いたしました。しかしながら、我々のような事業者は、「安くて良いモノを社会に供給する」ことは使命だと考え、この観点から今回の開発テーマは必要不可欠な課題でありました。

そこで、コムフレンド社は、強くてコストの安い素材である「Re-board」及び「段ボール」といった100%リサイクル可能な紙素材で作ることを考え、素材の取り扱いのある大成段ボール株式会社にご相談をいただきました。また、コムフレンド社は長年、香川大学の坂井教授と協同で障害者支援機器の開発(別紙4参照)に取り組みまれており、障害者に知見を持った香川大学の先生と附属支援学校の先生のアドバイスをいただくためにご協力をお願いし、この度の支援プロジェクトでは、ご縁があった地元香川県で、開発者・仲介者・モニター評価者のプロジェクトチームを結成し、開発を進めるに至りました。

### 2. 目的

私どもは、就労者が作業中にパニックになったり、落ち着かなくなったときに、集団から離れて個人だけで過ごせる環境づくりが大切だと考えています。その支援機器の1つとして、就労者が安心して過ごすことが出来る駆け込み部屋として「calm down space」を提案します。

開発にあたり、1で述べました「安くて良いモノを社会に供給する」、この想いのモノが自社の事業領域に存在することに2025年3月になり気づいた次第です。いかにコストを抑えて良い製品が生み出せるかを考えた結果、現在パー

ーションとして商材化している「cozyx パネル LL 型 8 枚組」をベースとし、パネルを 1 枚追加して 9 枚組とし、さらに天板を 1 枚追加すれば理想とする ROOM 型にすることが実現できるのではないかと考え、開発に着手しました。

こうすることで今まで 8 枚組を使っていた利用者もオプションでパネル 1 枚と天板 1 枚と留め具を追加すれば ROOM 型に変更することも可能となり、安価で「CALM DOWN ROOM」が実現できるというメリットが生まれました。

本事業では、実用性がある就労支援機器として世の中のお役に立ちたいという想いで取り組ませていただきました。

### 3. 実施内容

本事業では、開発者、製造者、研究者、利用者がチームとなり、「安くて良いモノを社会に供給する製造業者」この観点から今回の開発に着手しました。

モニター評価協力をいただいた「あなぶきパートナー様」で令和 7 年 9 月～12 月までの間、「CALM DOWN ROOM」の旧タイプ（木製）と今回新しく制作した新タイプ（紙製）を 2 台設置して、施設の利用者には 90 日間にわたりそれぞれ使用した感想についてアンケート及びヒアリングを行いました。また製造者である大成段ボール株式会社は計 10 回の訪問で機器の試作・改良を行いました。



左が新タイプ（紙製）、右が旧タイプ（木製）

#### ① 機器製造者の実施内容

##### 機器の設計・開発

- ・大成段ボール株式会社の社内にて、CAD ソフトを使用し機器の設計を行い、カッティングマシンで機器の試作を行いました。
- ・機器の問題点を現地で抽出し、利用者や仲介者のみなさまのご意見も参考にして、

改良をするという作業を繰り返し実施しました。

### 旧製品の課題

- ・木製なので重たく持ち運びがしにくい
- ・パーツ点数が多く、荷物の発送に苦勞する（送料が3~4万と高くつく）
- ・ネジや留め具を多用するため、組立てが大変
- ・価格が数十万となるため、手が届きにくい

### 試作で実施したこと

- ・四方の壁を木製から Re-board（紙製）に変更し、軽量化と低コスト化した（既製品の cozyx パネル LL 型 8 枚組を流用した）
- ・天板を木製（シナラン材）から強化段ボール素材に変更し軽量化と低コスト化した
- ・ネジや留め具を極力減らし、誰でも簡単に組立てや分解ができる構造とした

### 試作での課題

- ・段ボール製だと天板に歪みが出てしまう
- ・木製に比べて強度が落ち、グラグラして不安定だった
- ・ネジを使わず金具でパネル同士を挟み込む構造としたため、中で人が製品に触れることによりパネルを留め具で接続している所が緩み、パネルとパネルの隙間が出来ることがしばしば発生した
- ・室内が暗く、本などが読みにくい
- ・形がシンプルすぎて誰からも親しんでもらえないデザインである

### 試作で改善・改良したこと

- ・天板の材質を段ボールで最も強度のある 10mm 厚の強化 2 層段ボールの 2 枚貼り合わせた天板に変更した（図 1 参照）
- ・新たに底板を追加して、底板と天板にてパネルを挟み込むように改良し、パネルをがっちりと隙間なく固定することができた（図 2 参照）
- ・パネル同士を繋ぐ SUS 製の留め具の支持力を強くするため、L 型留め具のはめ込み深さを 10mm→25mm に変更し、S 型留め具のはめ込み深さを 10mm→30mm に変更したことにより、安定性が増し、課題を克服できた（図 3 参照）
- ・室内にスイッチ式のライトを設置し、利用者が必要に応じて明るくしたり暗くしたりできるようにした  
また好みのカラーを選んで楽しめるライトも設置した（図 4 参照）
- ・段ボール製の屋根（オプション品）を追加し、立体感のあるハウス型に改良した（図 5 参照）



図 1. 強化 2 層段ボール製  
の天板



図 2. 段ボール製の底板

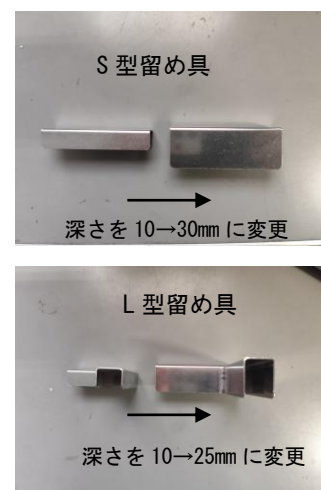


図 3. SUS 製留め具



図 4. 室内のライト



図 5. 屋根形状

## ② 仲介者及び施設管理者（モニター施設）の実施内容

精神障害、身体障害、知的障害を持つ利用者を対象に、CALM DOWN ROOM を使用したときの感想を、主に5段階評価でアンケートを実施しました。

また、施設管理者にも主に5段階評価で同様にアンケートを実施しました。

都度、気づき点や改善点をアドバイスいただきました。

### 利用者向けアンケート評価項目

- ・ CALM DOWN ROOM（以下機器と表記）使用后、気持ちは落ち着いたか
- ・ 機器使用后、集中して仕事できたか
- ・ 機器に入っているとき、周りの音や人の気配などは気にならなかったか
- ・ 機器は使いやすいと思ったか
- ・ これからも機器を使っていきたいと思ったか
- ・ 機器に入ったとき、だいたい何分位滞在したか
- ・ 機器の中で、どのようにすごしたか
- ・ 機器を使っていて、困ることはあるか
- ・ 旧型と新型を比較してどうだったか
- ・ 何か気づき点や改善点などあったか

### 施設管理者向けアンケート評価項目

- ・ 機器を使用した職員は使用后、作業効率や集中度に違いがみられたか
- ・ 機器を使用したとき、使用した職員が仕事に復帰する時間は普段と比べて違いが見られたか
- ・ 機器を設置することで、職員に対する支援・指導の時間や頻度に変化はあったか
- ・ 機器を設置することで、職員とのコミュニケーションに変化はあったか
- ・ 機器を設置することで、職場の雰囲気に変化はあったか
- ・ 設置・運用で困ったことはあったか
- ・ これからも機器を使っていきたいと思ったか

### ③ テクノエイド協会様のインタビュー動画の撮影協力

1/13 (火) 11:00~13:00 に、applibooks 撮影スタッフ様からのインタビューを受けさせていただきました。

インタビューの内容は、機器の開発にあたっての経緯、開発で工夫したこと・苦労したこと、利用者の感想、今後実現したいことなどを発表させていただきました。詳細については、動画が公開されましたらそちらでご視聴お願い申し上げます。

## 4. 実施結果

### 支援機器の完成品について

課題をクリアするために、仲介者・開発者・利用者からさまざまご指摘をいただき、試作・改良を繰り返した結果、コスト面、強度面、デザイン性、機能性、耐久性を満足する製品が完成しました。(下図参照)

- ・コスト面・・・予定していた価格内に抑えることができた
- ・強度面・・・強化段ボールを使用した上下の板で挟み込む構造とし、更に留め具を改良することで、紙製ながらも木製のように強度を持った製品にすることができた
- ・デザイン性・・・誰からも親しみやすいハウス型を取り入れ、造形の自由度の高い段ボールを使用することで、理想の形が実現できた
- ・機能性・・・組立式とすることで、全国どこにでも気軽に発送できて、保管も持ち運びもし易く、一人でも簡単に設置できるものがあった  
また、部屋の中の内壁が白いので、程よくうす暗く落ち着ける空間になった
- ・耐久性・・・90日間設置し、機器の破損や事故も無く、安全性・耐久性が確認できた

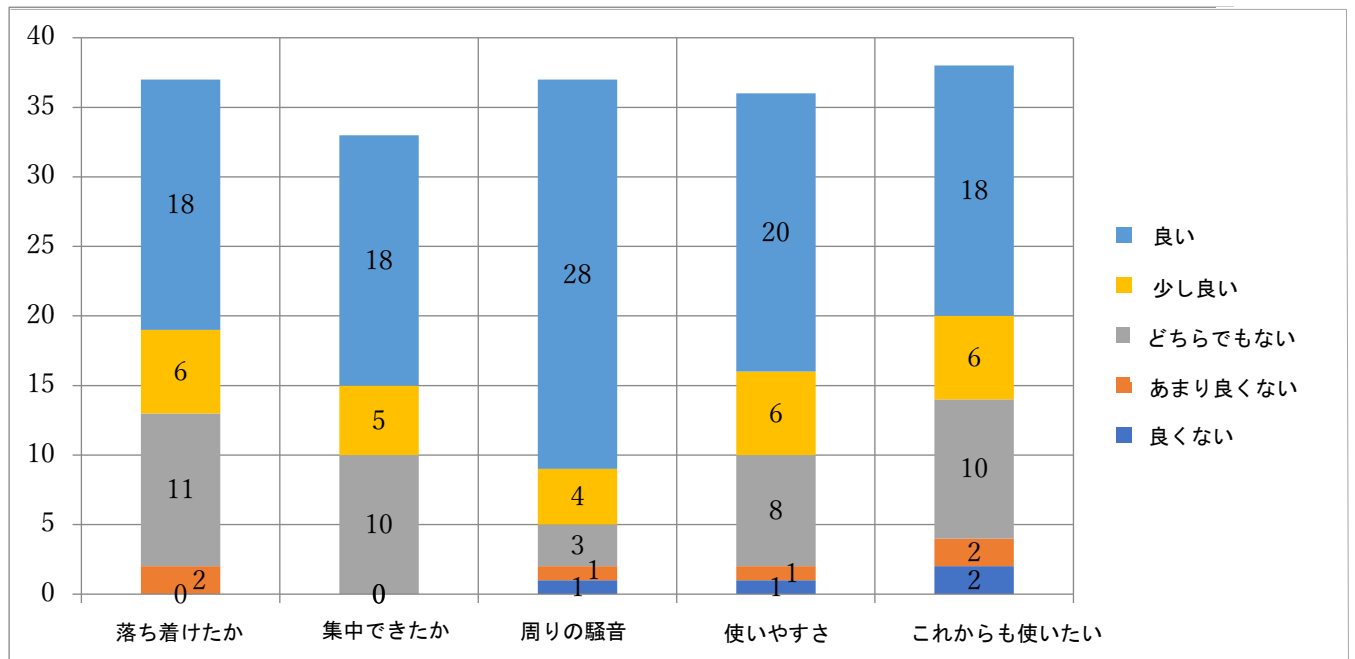


機器完成品の外観

## モニター施設へのアンケート結果について

・主な項目のアンケート結果（詳細は別紙1参照）

### ① 利用者自身のアンケート結果



上グラフの通り、ほとんどの利用者から機器について良い評価をいただきました。また、継続して機器を利用したいとのお声をいただきました。

### ② 施設管理者へのアンケート結果（詳細は別紙2参照）

- ・利用者が機器を使用することで、以前より仕事に集中できるようになった  
また、管理者も利用者を注視する頻度が減り、自分の仕事に集中できるようになった
- ・利用者が精神的に不安定になったとき、仕事に復帰するまでの時間が以前より5～10分短縮された。
- ・機器を利用することで以前に比べ利用者を支援・指導する時間と回数が減った
- ・機器を利用することで、職員とのコミュニケーションが良くなり、職場の雰囲気が良くなった
- ・機器の設置・運用で困ることは特になかった
- ・これからも心や頭をリセットする場所として機器を利用していきたいと思った

### ③ 機器利用後の出来事・気づき点

- ・事務所にハチが入ったとき、利用者がパニックになり文句を言っていたが、5分間機器に入ると文句をあまり言わなくなった
- ・朝出社して機器に少し入ると仕事に集中できる
- ・周囲の音もほとんど気にならないので、防音効果があり落ち着ける空間だと感じた

### 5. 今後の予定

今後のビジネス展開については、大成段ボール株式会社と株式会社コムフレンドの両社が日常的にパートナーとして「安くて良いモノを社会に供給する」、この基本路線を継続することです。

そのためには、WEB情報を共有してより多くの関係先（一般企業、特例子会社、就労支援施設、支援学校、機器取扱い商社など）に必要な情報を届けられる仕組みづくりが必要です。

WEBサイト・SNS・チラシを活用し、より多くの方々に機器を知ってもらえるよう展開していきたいと考えています。本事業でご縁があったあなぶきパートナー様にも引き続きご協力をお願いして、広報活動に取り組んで参ります。

テクノエイド協会様にはこの度の機器開発の助成をいただき感謝申し上げます。引き続きご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます

以上

# カームダウンルーム 使用後 アンケート結果

週1回、利用者(精神障害者・知的障害者)の方を対象に、項目ごとにカームダウンルームを使用しての感想を5段階評価でアンケートをとる

## 1. カームダウンルーム使用後、気持ちが落ち着けたか

項目	集計結果
①落ち着けなかった	0
②あまり落ち着けなかった	2
③どちらともいえない	11
④少し落ち着いた	6
⑤落ち着いた	18

## 6. カームダウンルームに入ったとき、何分ぐらいいたか

項目	集計結果
①1～5分	16
②6～10分	3
③11～15分	0
④16～20分	0
⑤20分以上	1

## 2. カームダウンルームを使った後、集中して仕事できたか

項目	集計結果
①集中できなかった	0
②あまり集中できなかった	0
③どちらともいえない	10
④少し集中できた	5
⑤集中できた	18

## 7. カームダウンルームの中でどのようにすごしたか

項目	集計結果
①何もせずに座る	9
②好きな音楽を聞く	2
③本を見る(絵本・マンガなど)	0
④横になる(寝る)	5
⑤その他	5

目を閉じて呼吸する  
スマホで動画やLINEをみる

## 3. カームダウンルームに入っているとき、周りの音や人の気配などは気にならなかったか

項目	集計結果
①気になった	1
②少し気になった	1
③どちらともいえない	3
④あまり気にならなかった	4
⑤気にならなかった	28

## 8. カームダウンルームを使っているとき困ることはあるか

項目	集計結果
①ある	0
②ない	16

## 4. カームダウンルームは使いやすいか

項目	集計結果
①使いにくい	1
②少し使いにくい	1
③どちらともいえない	8
④少し使いやすい	6
⑤使いやすい	20

## 9. カームダウンルームの新型(白色の紙製)と旧型(木製)のどちらが合っているか

項目	集計結果
①新型(紙製)	11
②旧型(木製)	6

直感的に入りたい、入りやすい  
新型よりも広いから男性は入りやすい  
紙製よりも暗いから無になれる

## 5. これからもカームダウンルームを使っていきたいか

項目	集計結果
①使いたくない	2
②あまり使いたくない	2
③どちらともいえない	10
④どちらからといえば使いた	6
⑤使いたい	18

## 10. その他気づき点や改善点について

- ・防音室みたいで落ち着ける
- ・タイマーがあればいい(例えば10分経過したら出てきてと伝えておけるから)
- ・事務所にハチが入ったときパニックになり文句を言っていたが、5分入ると文句をあまり言わなくなった
- ・落ち着きを取り戻すには良い空間
- ・真っ暗なので、ライトがあった方がよい

## アンケート結果から分かったこと

- ・ほとんどの利用者がカームダウンルームは落ち着ける空間だと感じた
- ・朝出勤してカームダウンルームに少し入ると仕事に集中できる
- ・周囲の音もほとんど気にならないので、防音効果がある
- ・カームダウンルームは気軽には入れて使いやすい
- ・これからも使っていきたい
- ・1～5分の短時間使用することが多い
- ・何もせずに座ったり、スマホや音楽を聞くことが多い
- ・あつて困ることはない
- ・紙製で白色の新型のほうが清潔感があって直感的に入りたいと思う

## コージールーム設置アンケート（事業主様用）

コージールームを事業所内に設置してみて、利用した職員の方の様子について教えてください。  
質問を読んで、下の選択肢からあてはまる番号に○をつけてください。

Q. コージールームに使用した職員は使用后、作業効率や集中度に違いがみられましたか。

- 1 : 落ち着かなくなった（仕事に集中できなくなった）      2 : あまり仕事に集中できなくなった
- 3 : 使用前と変化が見られなかった
- 4 : やや仕事に集中できるようになった      5 : 仕事に集中できるようになった

Q. カームダウンで使ったときに、使用した職員が仕事に復帰する時間は普段と比べて違いは見られましたか。

- 1 : 復帰にかなり時間がかかった（      分以上）      2 : 復帰に少し時間がかかった（      分程度）
- 3 : 普段と復帰までの時間は変わらなかった
- 4 : 復帰する時間が少し短縮された（      分程度）      5 : 復帰する時間が短縮された（5~10 分以上）

Q. コージールームを設置することで、職員に対する支援・指導の時間や頻度に変化はありましたか。

- 1 : 時間や頻度が増えた（      以上）      2 : 時間や頻度が少し増えた（      程度）
- 3 : 設置前と変化はなかった
- 4 : 時間や少し頻度が減った（      程度）      5 : 時間や頻度が減った（      以上）

Q. コージールームを設置することで、職員とのコミュニケーションに変化はありましたか。

- 1 : 関わりにくくなった      2 : 少し関わりにくくなった
- 3 : 変化はなかった
- 4 : 少し関わりやすくなった。      5 : 関わりやすくなった

Q. コージールームを設置することで、職場の雰囲気に変化はありましたか。

1 : 悪くなった

2 : 少し悪くなった

3 : 変化はなかった

4 : 少し良くなった

5 : 良くなった

Q. パーテーションの設置・運用で困ったことはありますか？（複数選択可）

1 : スペースの確保が難しい

2 : 利用ルールの周知が難しい

3 : 他の従業員の理解が得られない

4 : その他（自由記述）

困った事は特にありません。

改善点や要望があれば教えてください（自由記述）

Q. これからもコージールームを設置していきたいですか

1 : はい

2 : いいえ

3 : わからない

理由（記述することがあれば）

バリエーションをリセットする良い場所だと思っています。  
使う事に慣れば、みずから利用して効果を出せるので  
サポートスタッフのフォローが軽減すると思っています。

ご回答ありがとうございました。

## 言葉の解説

### カームダウン・クールダウン（室）が生まれた背景と経緯

#### ・市川宏伸氏、内山登紀夫氏（一般社団法人日本発達障害ネットワーク）：

新国立競技場整備事業におけるユニバーサルデザインワークショップ（UDWS）に日本発達障害ネットワーク市川理事長が参加され、以下の点を求めました。

1. 視覚優位が多い発達障害者に考慮して、表示を簡単で分かりやすいものにする
2. 自閉症者などに多い「パニック」が生じた時に冷静になるためのスペースあるいはルームを設置する

「パニック」が生じた際には、「特に声を掛けず、静かなところで、一人または二人で黙って15～20分ほどすると落ち着く」とことが分かっていました。大勢人がいる、騒々しい、温度が高い、湿度が高いなどの場所は苦手です。災害時にも、自閉症の人達は、避難所に行けず、家族と車の中で過ごすことが多いのです。家族が、「うちの子どもが「パニック」を起こすだろうから、新国立競技場につれて行けない」と考えれば、当事者だけでなく家族も行かなくなる可能性があります。

会議でカームダウン・クールダウンのスペースが認められたことは、発達障害については画期的なことでした。広くはありませんが、遮音されており、家族や同伴者と2人で暫く過ごすのには十分だと思えます。

このようなスペースには2種類あり、「パニック」が生じた時に冷静になるためのスペースあるいはルーム」と、もう一つは「静かなところに行きたくなったら過ごす場所」で、パニックを予防することを目的としています。特別支援学級などでも、潜り込む場所、カーテンなどで遮られた場所などがあり、「パニック」が生じた時に冷静になるためのスペースあるいはルームと、「パニック」を予防するためのスペースの両方を用意されている病院もあります。

#### ・橋口亜希子氏（橋口亜希子個人事務所）：

大声で泣き叫ぶなどパニックになってしまった場合は、落ち着く場所として個室が有効です。大切なことは、パニックを未然に防ぐことです。パニックになって一番傷ついているのはその子・その人自身です。ですので、パニックを予防するためにカーテンやパーティションで仕切られ潜り込めるようなスペースや、成田空港が設置しているボックス型も有効です。

#### ・高橋儀平氏（東洋大学）：

1970年代には欧州では一般学校でもオランダ発祥のスヌーズレンなどの個室が設けられていた事例もありましたが、日本では1980年代後半に普通学校のオープンスペースや階段下に小さな部屋が設けられるようになりました。また、同じころから公立のホールや一部の劇場で親子で観覧できる個室が設けられる事例が出てきました。

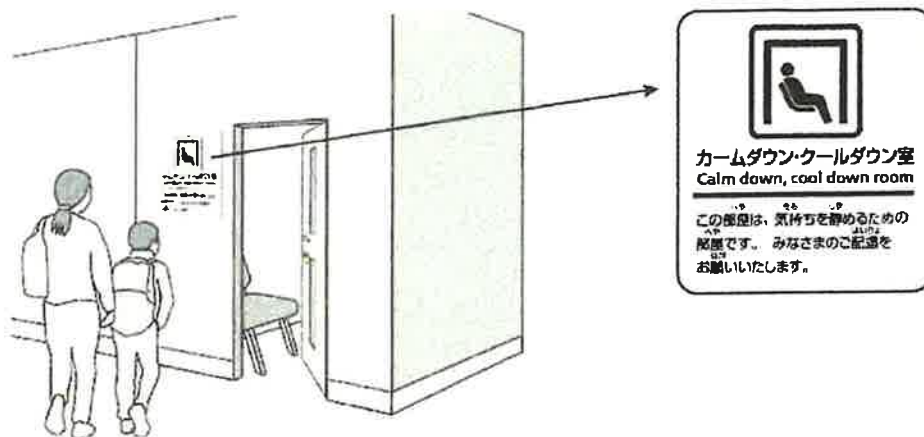
### カームダウン・クールダウンの意味

・TEACCH※1という支援技法には「カームダウン」とありますが、わかりにくいので「クールダウン」ではどうかという議論もありました。

※1：TEACCH（Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped Children（自閉症及び、それに準ずるコミュニケーション課題を抱える子ども向けのケアと教育））は、1970年代アメリカノースカロライナ大学で研究・開発された、自閉症当事者やその家族の生活を生涯にわたって支援していくための包括的プログラム

### カームダウン・クールダウン(室)を利用する人々

外部の音をなるべく遮り、外気温や湿度に左右されず、気持ちを落ち着かせることが必要になる方々で、発達障害の方、知的障害の方、精神障害の方、認知症者等が利用されます。



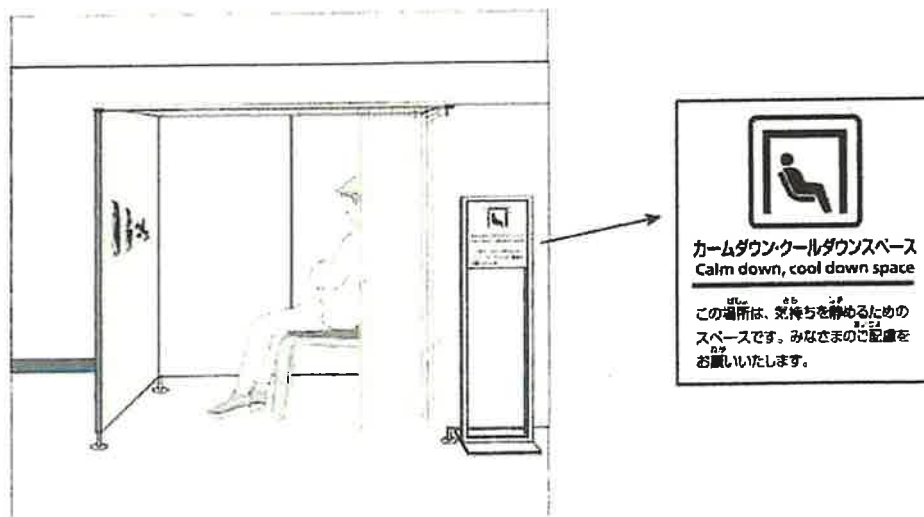
### ポイント

- 部屋は空調を備えた個室として、中から施錠できる方が望ましいです。
- 照明は明るすぎないように、落ち着けるように少し暗めの間接照明とし、照明(調光や色調)をコントロールできることが望ましいです。
- 部屋の入口には案内サイン「カームダウン・クールダウン室 Calm down, cool down room」を設置する共に、説明文はルビ付きで表示されることが望ましいです。
- 一点に集中し気分を落ち着かせるために「アイキャッチャー」を設置することも効果的です。「アイキャッチャー」は、動物等のイラストの他、キャラクターや数字などもよいと思います。
- カームダウン・クールダウン室は既存のものを活用するなどの工夫でも十分対応できます。

### ○カームダウン・クールダウンスペース (Calm down, cool down space)

間仕切りなどで簡易的に作られたスペースの場合は、「カームダウン・クールダウンスペース (Calm down, cool down space)」として、必要な方が使うためのスペースであることをわかりやすく表示してください。

また、説明文は「この場所は、気持ちを静めるためのスペースです。みなさまのご配慮をお願いいたします。」など補助表示されるとよいと思います。



### ポイント

- パーティション(間仕切り)等を活用し、部屋の中を部分的に仕切った事例です。
- 照明は明るすぎないように、落ち着けるように少し暗めの間接照明が望ましいです。
- この場合、防犯上の理由から、足下が見えるカーテンやロールスクリーンで仕切るようにします(設置場所の要件によって変わります)。
- 部屋の入口には案内サイン「カームダウン・クールダウンスペース Calm down, cool down space」の表示を設置する共に、説明文はルビ付きで表示されることが望ましいです。
- 一点に集中し気分を落ち着かせるために「アイキャッチャー」を設置することも効果的です。「アイキャッチャー」は、動物等のイラストの他、キャラクターや数字なども効果的と言われています。
- カームダウン・クールダウンスペースは既存のものを活用するなどの工夫でも十分対応できます。



第3ターミナル国内線



第3ターミナル国際線

成田空港がカームダウン・クールダウンスペースを設置した背景には、空港が非日常的な空間であるため、慣れない移動や、様々な人や音、光、においなどの混在により不安やストレスを感じて困っている、発達障害など見た目にはわからない障害のある人たちの「移動と安心の連続性を担保する」目的があります。カームダウン・クールダウンスペースを利用することで、不安や緊張を和らげて落ち着いて、安心して空の旅を楽しんでほしい、その思いが込められた設備なのです。

また、カームダウン・クールダウンという言葉がまだ知られていない日本の社会において、カームダウン・クールダウンスペースという設備の「ハード面」を通して、空港利用者や空港で働くスタッフなど、人々の理解を深めていく「ソフト面」の拡充を図ることも目的の一つです。意図しない利用がなされることによって、本当に必要な人が利用できないことがないように設置されている看板にもその思いが込められています。

変に「臨時で設置できる」好事例と言えます。

また、イベントに参加した聴覚に感覚過敏の特徴のあるお子さんへの配慮として、お子さんが利用する時間帯のみ、急な放送を除き自動放送を自粛して「サイレントエアポート」としての環境が提供されたことは、音声案内が過多となっている日本の空港の情報提供の在り方について一石を投じた先進的取組と言えるでしょう。

## 成田空港



第2ターミナル国内線



第1ターミナル国内線

成田空港では、ANA（全日本空輸）と共同で企画し、日本で初めて実施された搭乗体験をきっかけに、日本の公共交通機関で初めてカムダウン・クールダウンスペースを設置しました。まず第1ターミナル国内線に設置し、その後、利用者の意見を反映してデザインやサイズを改善しながら第2ターミナル国内線、第3ターミナル国内線、国際線へとボックスタイプのカムダウン・クールダウンスペースを順次設置しました。

この先進的な取組は、他の空港会社においても好事例として共有化ができる取組みです。カムダウン・クールダウンスペース導入を含めたユニバーサルデザインに関するプロセスや取組みが評価され、第13回国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰を受賞しています。



コンパクトな読み上げペン

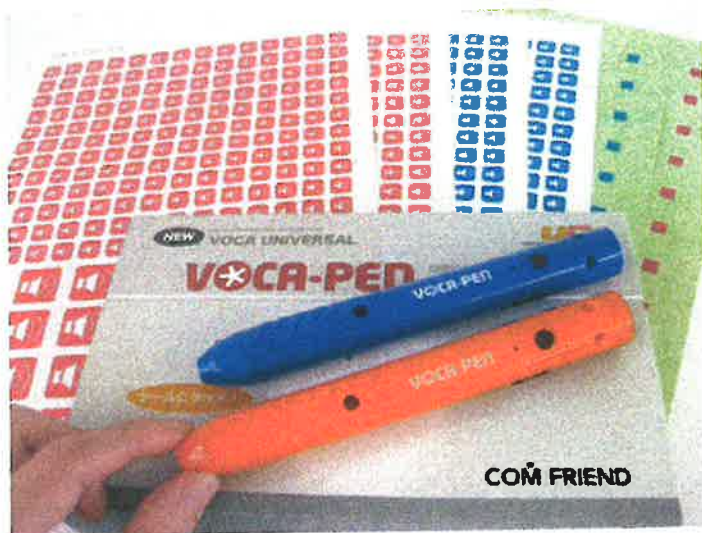
# VOCA-PEN

## シールセット

¥21,800 (非課税)

～自由に録音・再生ができる夢のペン～

香川大学教育学部 坂井聡教授監修の革新的なコミュニケーションツールが新たにバージョンアップ！  
ペンとシールのセットになっており、音声を録音したシールをペンでタッチするとその内容を再生します。  
録音操作も簡単で、学習や日常生活などさまざまな場面で活用することができます。



コミュニケーション支援



絵本の読み上げ



物の名前学習



音楽遊び



【パッケージ内容】ペンとシールで1セットです。

◆読み上げペン「VOCA-PEN (ヴォカペン)」1本 本体色が青・オレンジの2種類あります。

イヤホン、充電用USBケーブル・ACアダプターも付属 ご注文時に本体色を選択下さい。

〈ペンのサイズ〉直径20mm×長さ150.9mm 〈ペンの重量〉32g

〈電源〉付属のUSBケーブルにてパソコン or コンセントから充電

〈容量〉総録音時間20時間 (microSDカード4GB内蔵)

◆録音シール 6シート(赤色・青色・透明×各2シート) 総計960枚 (下図のシールは実寸大です)

赤・小 1cm角	青・小 1cm角	赤・大 2cm角	青・大 2cm角	透明・水色 2cm角	透明・ピンク 2cm角
336枚	336枚	56枚	56枚	88枚	88枚

開発：五大エンボディ株式会社 \*「VOCA-PEN」は、五大エンボディ株式会社の登録商標です。

**COM FRIEND**  
株式会社 コムフレンド

販売元：本社〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂 6971-1

問合先：本社〒 長野県駒ヶ根市赤穂 6971-1

〒610-1102  
京都市西京区御陵大枝山町三丁目13番地-5

TEL:0265-81-0177 FAX:0265-81-0178

E-Mail contact@com-friend.co.jp URL http://www.com-friend.co.jp

残り時間が目で見てわかるタイマー

# Time Log

タイムログ



スイッチを押すと、タイマーがスタートします。15のスイッチを押すと15分のタイマーがスタートします。

タイマーが終わると、アラーム音がなり、時間が終了したことを知らせます。



LEDの数が、時間が経つにつれて減っていきます。時間の経過が、一目でわかります。



さくらちゃん



タイムログって??



りょうまくん



光の量で残り時間がわかるタイマーだよ!

タイムログ20-1 20分までの4つのスイッチがあり、1分間に1つのLEDが点灯します。

## タイムログの使い方

20分間だけお勉強しましょう

はい!

あ! 終わりの時間だ

勉強も終わったし...

ゲーム! ゲーム!!

## 初めての方へ タイムログ活用ポイント

タイムログを使い始めるときは、タイマーに興味を持てるように「楽しいことが始まるよ!」という使い方から始めてください。

たとえば、おやつの時間まで15分、おでかけまで60分など、ワクワクする物事までの時間に使ってみましょう。

その後、ドリルを30分、歯磨きを5分など生活の中の必要な場面へと活用の幅を広げていって下さい。



ただひろせんせい



連絡帳を10分て書きます。ランプが消えていく様子を意識しながら、時間内で書き終えることが出来るようになりました。



給食を1時まで食べ終わります。時計も併用して残り時間を意識します。

## タイムログの種類 (全3種) 各 52,250円 (税込)



タイムログ 60-3  
60分までの4つのスイッチがあり、3分間に1つのLEDが点灯します。



タイムログ 60-5  
60分までの4つのスイッチがあり、5分間に1つのLEDが点灯します。

godai embody  
五大エンボディ株式会社

株式会社 コムフレンド 〒610-1102

京都市西京区御陵大枝山町3丁目13番地5

Tell 090-3035-0463

FAX 075-331-8340

http://www.godai.co.jp

私たちが、自分の生活に「時計」がなくなったら、とても不安になると思います。今の行動、次の行動に落ち着いてのぞめるように「あと、どれくらい」がわかる安心を生活の中に取り入れてみてください。・・・五大エンボディSTAFF

# Cozy

## Cozyプロジェクト (疑似体験用環境形成システム)

このプロジェクトは、個人の価値観を重視した「積極的快適さ」を求めて、五感に適度に刺激する、自らが参加型のIntellectiveな作品や環境を提供するものです。現代社会において求められている、この「積極的快適さ」は、様々な要素技術を駆使した、創造的でファンタジックな環境から得ることができるでしょう。一般的には脳の活動状態は、脳波成分により見分けられます。例えば、大脳皮質が盛んに活動しているときにはβ波（ベータ波）がよく出現します。反対に活動が低下し、睡眠状態になると、高振幅徐波であるδ波（デルタ波）が出現します。またゆったりと落ち着いた雰囲気からは、落ち着きを示すα波（アルファ波）が出現しています。

従って、この快適環境を評価する脳活動と自律神経活動が実証される取り組みも必要となります。

このコンセプトを基盤として「Cozy-Project」がスタートしました。Cozyとは、英語で家や居所などが「居心地が良い」「気持ちの良い」、人などが「思いやりのある」、雰囲気などが「くつろいだ」という意味を表しています。この「Cozy」が日本に定着し有効な生活環境改善策になる事を目指して、様々な開発と提案をしていきます。

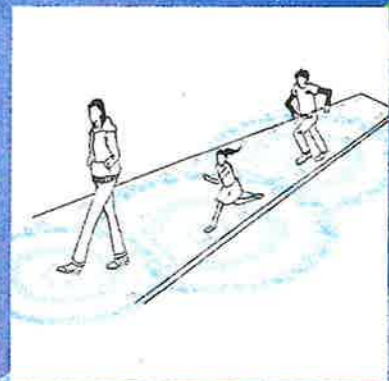
この度、このプロジェクトの中で創作された作品やテーマを「Cozy-News」として発行することになりました。逐次新しい物を提供していきますので、保存版として活用して頂けることを希望しています。

2002年11月  
五大エンボディ株式会社  
佐藤忠弘

## みずたま

歩いたり走ると映像や音が生じ  
様々な「水」を疑似体験できます。

実際には水を使用せずに、普段できない水たまり遊びを体験できます。床に設置されたセンサーが人の位置、移動時間を感知して、水たまりの形状や水のはねる音を変化させ、あたかも実際に水の上で遊んでいるような楽しさを感じられます。



MIZUTAMA

## くも

座ったり寝転がったり、動きに合わせて  
「自分の雲」が映し出されます。

マット状の床面に接することで、天井面の青空に雲が発生します。床に設置されたマットセンサーに圧力を加えることでその位置に対応する雲の映像をプロジェクトによって青空に映し出します。自分の分身が雲になって、青空をフワフワと気持ちよさそうに漂います。



KUMO

## シャボン玉

話をすると  
声に合わせてシャボン玉が出てきます。

この装置ではシャボン玉が声に反応して発生します。マイクから入力された信号の周波数（男女の区別）及び音圧レベル（声の大きさ）によって、シャボン玉の大きさや量を変化させ、まるでシャボン玉もおしゃべりに参加している様で会話も楽しくはずみます。



SHABONDAMA